

キートンのセブン・チャンス (1925)

SEVEN CHANCES

メディア 映画
ジャンル コメディ
製作国 アメリカ
色彩 B&W
時間 60分
初公開日 不明
リバイバル 1973/06 [フランス映画社]

【キャッチコピー】

7000人の花嫁！ 7つのプロポーズ！ 愛する女性はただひとり…… 野を駆け、山越え、谷を跳び 岩石落しの大追跡！（リバイバル時）

【解説】

初公開時の邦題は「キートンの栃麺棒」という珍なるものだが、“とちめんぼう”とは女房、奥さんの意だそうで、昔の人は洒落好きだった。その棒がキートンを攻撃する女性陣の具体的な武器として、本作に登場したか否かは記憶に定かではないが、それも当然あったはずで、何しろ数百人もの花嫁候補に“結婚詐欺師”呼ばわりされ逃げるキートン君だけでなく、観る側にもあの女群は恐ろしく、手に手にそれぞれ何かしらの武器は持っていたと強迫観念から思い込んでいる。27回目の誕生日の午後7時までに結婚すれば700万ドルの遺産が入るとの、祖父の遺言に従って、ステディの娘にアタックすれば“お金目当てに結婚すると思われるのは癪”とひじ鉄喰らわされたキートンは、仕方なく新聞に“結婚相手募集”の告知を出すのだが、これに教会へ集まったのが先ほどの人数（ヒッチコックの「鳥」のごとく増殖する）。みんなウェディング・ドレスを着てやる気満々で、たまらず逃げ出す彼を追いかけ追いかけ、町へ郊外へ、そして丘陵地ではその姿は岩石に変わって転がり落ち、彼をおののかせる！悪夢のようなこの展開は、スラップスティック・コメディがシュールリアリストがいくら妬んでも追いつかぬ、超芸術の領域にあることを、今観ても改めて思い知らせる大傑作。

【クレジット】

監督 バスター・キートン Buster Keaton
原作 ロイ・クーパー・メグラー
脚本 ジーン・ハーベッツ
クライド・ブラックマン Clyde Bruckman
ジョゼフ・ミッチェル
出演 バスター・キートン Buster Keaton
ロイ・バーンズ
ルス・ドワイヤー
ジーン・アーサー Jean Arthur